

## ～ CISPRストレージ会議の結果について ～

### 3. 各小委員会

#### (3) F小委員会（家庭用電気機器、照明機器等の妨害波に関する規格を策定）

##### ア 家庭用電気機器・電動工具等の妨害波規格（CISPR 14-1）の改定

第6版のCDVが発行されるまでに技術的な検討を十分に行ったため、CDVは反対1票のみで可決された。反対票の原因となったのは、適合判定の統計的な評価方法である80%/80%ルールに対する異議であった。今回の会議では、意見がまとまらなかったため、現段階では80%/80%ルールについての変更は行わず、アドホックグループを新たに設置して検討を行うこととなった。

記載が漏れていたワイヤーネットワークポートの要求事項を注記に追加するなど、技術的事項に係る我が国からの提案はほぼ受け入れられた。また、IH式調理器の30 MHz以下の許容値及び測定法の要求について、家庭用か業務用かで分けて適用する現行の規定から、EUTサイズが1.6m以下かそれを超えるかで分けて適用するよう規定を修正することなどが決定された。クリック測定については、測定手順を明確化するため、現行の5.2版に対する解釈票の検討を行うこととなった。

次の検討段階はFDISとすることが決定され、12月中に回付することが確認された。

##### イ 照明機器等の妨害波規格（CISPR 15）の改定

第9版のCDに対して、非常に多くの意見が各国から提出された。我が国からも技術的変更を含む多くの意見を提出し、ローカルワイヤーポートには従来のAAN法を併記して残すべきなどの意見が受け入れられた。また、伝導妨害波測定の試験配置におけるケーブル長が80cmと規定されていることに対して反論し、大型機器の試験配置についても追記するなどの成果を得たほか、CDNE法を適用する場合のEUTサイズを3m×1m×1mまでとすることが決定された。

次の検討段階は2<sup>nd</sup>CDとすることが決定され、中間会議を開催して検討を進めることが確認された。

##### ウ ワイヤレス電力伝送システムの審議

測定法について、ラージループアンテナからループアンテナに変更したいとの提案が韓国から出され、検討の結果、代替測定法としてループアンテナを採用することとなった。また、IPT機器は想定される使用状況がIH式調理器とは異なり、

通信障害を発生させる確率が同じではないため、IH式調理器の許容値をそのままIPT機器に適用するのではなく、IPT機器専用の許容値を設定すべきとの提案が国際アマチュア無線連合から出された。IPT機器専用の許容値を設定する必要性が確認できればH小委員会に許容値の検討を依頼することが確認されたが、F小委員会における検討の結果その必要性が否定され、IH式調理器の許容値をそのまま適用することが決定された。

CISPR 14-1第6版のFDISが可決された後、速やかにCDを回付することが確認された。